

9年生が防災学習で自衛隊と女性防災リーダーに学ぶ（防災学習③）

今年の9年生は、「地域の役に立つ人になる」というテーマで、「地域貢献活動」「防災学習」を行っています。3回目は自衛隊と地域の防災リーダーをお呼びして実習を交えて様々な事を教えて頂きました。



最初に、基調講演として、自衛隊広報官の方から、防災についての講座を受けました。

昨年の磐田の大雨の事例を含め、実際に昨今起きた事例についての実状を知り、その中で中学生ができることなどを学びました。その後、4つのチームに分かれて、実習を行いました。

砂場では、きちんと使える「土嚢」作り。ただ作って積みばいいものではなく、詰め方、重ね方で水を堰き止めたり、水の方向を変えたりできるそうです。今まで見てきた土嚢とは全然違うものが出来ました。



アリーナでは、命を守る「ロープワーク」。自分や人、柱などにロープを結わくことで、水や土砂に流されず、自助、共助が可能になります。お腹を締めることなく、きちんと留まるやり方を学びました。

会議室では、海上自衛隊南極地域観測隊だった方に南極観測船「しらせ」のお話を聴きました。



地域の防災女性リーダーからは、「備蓄品」のサンプルと共に何をどう揃えておけば良いのか？と、水も火も使えない時のための「防災クッキング」を習いました。どれも、いざという時の大事な技を得ました。

